

## 第3章 独立確率変数列の極限定理

### 3.1 独立性の定義

確率空間  $(\Omega, \mathcal{F}, P)$  を固定しておく． $\Omega$  は十分大きいとしておく．この上でたくさんの確率変数を考えたとき，それらが独立であると都合が良いことがある．まず，確率変数が独立であるということを定義しよう．

**定義 3.1** 二つの確率変数  $X, Y$  が独立とは，任意のボレル集合  $A, B \in \mathcal{B}$  に対して

$$P(X \in A, Y \in B) = P(X \in A)P(Y \in B)$$

となるときに言う．同様に  $n$  個の確率変数  $X_1, \dots, X_n$  が独立であるとは，任意のボレル集合  $A_1, \dots, A_n \in \mathcal{B}$  に対して

$$P(X_1 \in A_1, \dots, X_n \in A_n) = \prod_{j=1}^n P(X_j \in A_j)$$

となるときに言う．

無限個の確率変数  $\{X_\lambda; \lambda \in \Lambda\}$  が独立とはこの中の任意有限個の確率変数の組  $X_{\lambda_1}, \dots, X_{\lambda_n}$  が独立なときに言う．

**例 3.1** 二つの事象  $A, B \in \mathcal{F}$  が独立であるとは，その指示関数  $1_A, 1_B$  が独立な時に言う． $1_A, 1_B$  は 0 か 1 の値しかとらない確率変数なので， $A, B$  が独立とは，任意の  $a, b \in \{0, 1\}$  に対して

$$P(1_A = a, 1_B = b) = P(1_A = a)P(1_B = b) \quad (3.1)$$

が成り立つことと同値である． $1_{A^c} = 1 - 1_A$  とかけるので，上の式は  $P(A \cap B) = P(A)P(B)$  が成り立てば成立する（確かめてみよ）

ただし，集合の個数  $n$  が 3 以上の時は

$$P(A_1 \cap A_2 \cap \dots \cap A_n) = P(A_1)P(A_2) \cdots P(A_n) \quad (3.2)$$

が成り立ただけでは  $\{A_j\}_{j=1}^n$  が独立とは限らない。つまり (3.1) に対応する

$$P(1_{A_j} = a_j, j = 1, 2, \dots, n) = \prod_{j=1}^n P(1_{A_j} = a_j)$$

は、任意の  $a_1, a_2, \dots, a_n \in \{0, 1\}$  に対して保証できない。例えば、事象  $A, B, C$  に対して

$$\begin{aligned} P(A \cap B \cap C) &= \frac{1}{8}, & P(A \cap B \cap C^c) &= \frac{1}{6}, \\ P(A \cap B^c \cap C) &= \frac{1}{6}, & P(A \cap B^c \cap C^c) &= \frac{1}{24}, \\ P(A^c \cap B \cap C) &= \frac{1}{12}, & P(A^c \cap B \cap C^c) &= \frac{1}{8}, \\ P(A^c \cap B^c \cap C) &= \frac{1}{8}, & P(A^c \cap B^c \cap C^c) &= \frac{1}{6} \end{aligned}$$

としておくと、 $P(A) = P(B) = P(C) = \frac{1}{2}$  となり、 $P(A \cap B \cap C) = P(A)P(B)P(C)$  であるが、 $A, B, C$  は独立でない。

定理 3.1 確率変数列  $X_1, \dots, X_n$  が独立であることと次の条件が成立することは同値である。

任意の有界なボレル可測関数  $f_1, \dots, f_n$  に対して

$$E\left[\prod_{j=1}^n f(X_j)\right] = \prod_{j=1}^n E[f(X_j)] \quad (3.3)$$

が成り立つことである。

証明 (十分性) 任意のボレル集合  $A_1, \dots, A_n$  に対して、 $f_j(\omega) = 1_{A_j}(\omega)$  とおくと、これらは有界なボレル関数だから (3.3) から

$$E\left[\prod_{j=1}^n 1_{A_j}(X_j)\right] = \prod_{j=1}^n E[1_{A_j}(X_j)] = \prod_{j=1}^n P(X_j \in A_j) \quad (3.4)$$

一方、

$$\prod_{j=1}^n 1_{A_j}(X_j(\omega)) = 1 \Leftrightarrow X_j(\omega) \in A_j, \quad j = 1, 2, \dots, n.$$

だから

$$E\left[\prod_{j=1}^n 1_{A_j}(X_j)\right] = P(\{X_1 \in A_1\} \cap \dots \cap \{X_n \in A_n\})$$

となり,  $X_1, \dots, X_n$  は独立.

(必要性)  $X_1, \dots, X_n$  が独立とする. このとき定義から任意のボレル集合  $A_1, \dots, A_n$  に対して (3.4) が成り立つ. これから各  $f_j$  が階段関数のとき, つまり

$$f_j(\omega) = \sum_{k=1}^{N_j} c_k^{(j)} 1_{A_k^{(j)}}(\omega)$$

の形のときにも (3.3) は次のようにして成り立つ.

$$\begin{aligned} E\left[\prod_{j=1}^n f_j(X_j)\right] &= \sum_{k_1=1}^{N_1} \dots \sum_{k_n=1}^{N_n} E\left[\prod_{j=1}^n c_{k_j}^{(j)} 1_{A_{k_j}^{(j)}}(X_j)\right] \\ &= \sum_{k_1=1}^{N_1} \dots \sum_{k_n=1}^{N_n} \prod_{j=1}^n c_{k_j}^{(j)} E[1_{A_{k_j}^{(j)}}(X_j)] \\ &= \prod_{j=1}^n c_{k_j}^{(j)} \left( E\left[\sum_{k_j=1}^{N_j} 1_{A_{k_j}^{(j)}}\right] \right) \\ &= \prod_{j=1}^n E[f_j(X_j)] \end{aligned}$$

各  $f_j$  が非負のときは  $f_j^{(\nu)} \nearrow f_j$  となる非負の階段関数を取るにより単調収束定理から

$$\begin{aligned} E\left[\prod_{j=1}^n f_j(X_j)\right] &= \lim_{\nu \rightarrow \infty} E\left[\prod_{j=1}^n f_j^{(\nu)}(X_j)\right] \\ &= \lim_{\nu \rightarrow \infty} \prod_{j=1}^n E[f_j^{(\nu)}(X_j)] \\ &= \prod_{j=1}^n E[f_j(X_j)] \end{aligned}$$

最後に，一般の有界なボレル可測関数  $f_j$  については， $f_j = f_j^+ - f_j^-$  と書くことで，

$$\begin{aligned} E\left[\prod_{j=1}^n f_j(X_j)\right] &= \sum_{\varepsilon_1=+1,-1} \cdots \sum_{\varepsilon_n=+1,-1} \varepsilon_1 \cdots \varepsilon_n E\left[\prod_{j=1}^n f_j^{\varepsilon_j}(X_j)\right] \\ &= \sum_{\varepsilon_1=+1,-1} \cdots \sum_{\varepsilon_n=+1,-1} \varepsilon_1 \cdots \varepsilon_n \prod_{j=1}^n E[f_j^{\varepsilon_j}(X_j)] \\ &= \prod_{j=1}^n E[f_j(X_j)] \end{aligned}$$

**練習問題 3.1**  $X, Y$  が独立でそれぞれが密度関数  $f_X(x), f_Y(y)$  を持つとき，

$$P((X, Y) \in B) = \int_B f_X(x) f_Y(y) dx dy \quad (3.5)$$

が任意の2次元ボレル集合  $B$  に対して成り立つ．このことを使って， $X$  がパラメータ  $\alpha > 0$  の指数分布に従い， $Y$  がパラメータ  $\beta > 0$  の指数分布に従うとき， $X, Y$  が独立ならば

$$P(X \leq Y) = \int_0^\infty \alpha e^{-\alpha x} \int_x^\infty \beta e^{-\beta y} dy dx$$

とかけることになる．この確率を求めよ．また，なぜこの式が成り立つのか？(3.5) を使って説明してみよ．( $B$  をどうとるのか？)